

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570102618		
法人名	有限会社 彩華		
事業所名	グループホームひまわりの杜		
所在地	宮崎県宮崎市潮見町50番1		
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年10月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街に立地し、交通アクセスも良く、近隣には緑豊かな緑道公園があり、いつもの散歩コースとなっている。自治会に入会し近隣住民との防災訓練や清掃活動にも参加し、地域の情報収集に努めている。また、施設入所希望者の数々が、近隣住民やその方々のご紹介での施設見学から入所に結び付くなど地域交流も良好な関係を築いている。毎日、安心して生活できるように、協力医との24時間対応の連携を取っている。施設母体である、幼保園のボランティアや地域ボランティア慰問の際には、同施設にある、デイサービス利用者との交流を深めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員全員で話し合いを重ね、“笑顔・安心・居場所”の利用者の思いに沿った理念を掲げている。職員は、日々、理念に沿った支援に取り組んでいる。自治会の班長を務め会議に出席、行事に利用者と一緒に参加するなど、地域住民との交流に取り組んでいる。重度化、終末期の指針を作成し、医師、訪問看護等との協力体制の構築に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で話し合い、理念を作成し目標として掲げている。この理念は職員が常に目に付く場所(職員トイレ、スタッフルーム、キッチン)に貼り意識付けを行っている。	職員で作成した理念を掲げている。理念に沿った支援が出来ているかを職員会議等で話し合い共有するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の班長となり、総会や地域ボランティア活動に参加をする事で、地域住民と顔見知りとなり挨拶や情報交換を交わす等地域の交流に努めている。運営推進会議には、地区副会長や民生委員の方も毎回参加され貴重な意見をいただいている。	自治会で役割を担い、一斉清掃や避難訓練に利用者も一緒に参加し、地域のオレンジカフェを利用するなど地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区副会長・民生委員・地域包括支援センターの方々と連携を図りながら、地域の高齢者の情報収集を行っている。地区総会には必ず参加し認知症の理解を深めていただけるよう話の場を設けている。また、施設見学者の受け入れや相談は必ず行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し、施設の活動状況や入居者状態を報告し、参加者全員に率直な意見を聞くことでサービスの向上に繋げている。	利用者家族や地域の代表も参加して、定期的に会議を開催し新しい取組の提案があるなど、そこでの意見をサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターには、ホームの問題点や書類の提出など、アドバイスや相談を受けながら連携を図っている。また、市が主催する研修会等にも参加し交流を深めている。	運営上の問題点を相談したり、市主催の研修に参加するなど、関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し年に4回の会議及び勉強会を行い情報の共有を行っている。当施設は、建物2階にあり、玄関を開けるとすぐに階段が設置してあるために危険性が高い、入居前にご家族や本人に説明を行い施錠の理解をいただいている。また、散策やドライブを取り入れることで圧迫感のない生活を支援している。	身体拘束廃止委員会で勉強会を開催し、職員全員の共通認識に努めている。建物の構造上玄関の施錠はやむを得ない状況であるが、見守りで、解錠する時間を増やし、利用者が抑圧感を感じないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会の中に取り入れ、虐待が見過ごされる事がないように努めている。入居者の変化が見られた時には、すぐに話し合いを行い全職員で防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、必要に応じ勉強会を行うようになっている。制度の必要性がある場合には、地域包括支援センター等を活用していく。また運営推進会議で家族等に周知していただくよう呼びかけをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の不安を尋ね、契約時には管理者、ケアマネジャーより十分な説明を行っている。報酬加算の必要性や料金改定の際には文章を作成し、お一人ずつ説明し理解、納得の上で押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に、ご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内提示を行っている。また 運営推進会議や家族面会時には、家族が話しやすいように職員からの挨拶や声掛けを行っている。ご家族の意見 要望には出来る限りの対応をしている。	運営推進会議に利用者や家族が参加し、意見や要望を表せる機会がある。家族の来訪の際は、声かけて意見や要望を聞き、話しやすい環境をつくるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は毎月の職員会議に出席し職員の意見や要望を十分に聞き、ケアの質の向上に努めている。毎月、代表者宛に全職員が反省会資料を提出する仕組みとなっており、自分の要望や意見を伝えやすい環境にある。	代表者は職員会議に出席して、職員の要望や意見を聞いている。毎月、全職員は直接代表者に要望を表する機会があり、代表者は要望等を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を含め、職員の日々努力や勤務実績を把握し賞与や昇給に反映している。また働きやすい環境を作るために、施設統括にて個別指導もあり、資格取得や勤務調整にも随時対応しやりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のために、研修内容に応じた職員を参加させている。また 研修で得た知識を会議にて全職員に伝え技術や知識を身に付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・ケアマネジャー協会に入会し同業者との交流を図りながら様々な情報交換に努めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に訪問し、本人や家族の意見や希望に耳を傾け、サービスを受ける際の不安や要望を引き出し不安解決に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡や訪問・面談を行いながら、家族の不安や要望に出来る限り応じられるように努力している。施設生活の中で出来る事も提案しながら、本人が困らないよう環境づくりに努め信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた「その時」から、何が出来るかを見極めながら、ディサービスや有料老人ホームの案内も必要に応じて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と過ごしていく中で喜怒哀楽を共感しながら家族のような暖かい関係づくりに努め信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と疎遠にならないように、こまめに連絡を行い、現在の状態を理解していただいている。また面会時に職員と気軽に話をする機会も多く見られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人の訪問は随時受け入れ、これまでの人間関係を継続できるようにしている。施設フロア内の電話は、いつでも自由に使えるような体制を取っている。月のドライブには、懐かしい場所や馴染みの場所を巡り思い出しに努めている。	知人が訪問したり、利用者の昔の勤務先や特攻隊の墓地等をドライブの際訪れるなどして関係継続の支援に努めている。家族の協力を得て、親族間の集まりなどへの外出や外泊を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者全員で取り組めるようにレクリエーションを工夫している。取り組めない入居者には孤立しないように簡単な役割をさせていただく事で全員で達成感を味わえるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを個別の事情で終了した場合は、本人やご家族が必要とされる関係機関へ連絡し、その後の暮らし方に活かせるようにケア方法・習慣・好み等をまとめたサマリーの作成を行い、いつでも伝達・相談が出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の言葉や行動を観察し、思いや希望を叶えるように努めている。それが難しい方には、職員や家族間で話し合い、その方の意向に沿えるように努めている。	日々の暮らしで寄り添い、言葉や表情から思いや希望の把握に努めている。家族からも情報が得られるよう、家族の来訪時に声を掛け、話をして意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人やご家族、ケアマネジャー等の情報を収集し職員間にて情報の共有を行っている。また、今までの生活環境や馴染みの暮らしを意識した支援が行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別生活記録にサービス実践の様子、本人の言葉、表情、心身状態の変化等を記録に残し職員間での情報共有を行っている。また 重要な事柄は赤色にて記入する等、一目で分かるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の様子に気になる事があれば記録に残し、必要に応じて介護計画書の見直しを行っている。介護計画書作成時には、本人、家族、主治医、管理者、介護職員等の意見を聞きながら作成を行っている。	計画作成担当者が介護計画を基にモニタリングを行い、課題分析シートを作成している。職員で話し合い介護計画の作成(見直し)を行っている。本人や家族と面談し、意見を聞き、介護計画の説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には、ケアプランの短期目標を掲げ、本人の発した言葉やケアの様子を記録に残し、職員間で情報を共有し計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間対応の協力医のもと、定期的な往診、予防接種、血液検査等を行っている。また、歯科、皮膚科往診診療も個別に治療できる体制を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地区副会長、民生委員、地域包括支援センターに出席をいただき、アドバイスや情報収集を得ている。併設されているディサービスでのボランティア見学や夏祭りの参加、アロママッサージ、オレンジカフェへの外出等、地域交流を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する、かかりつけ医や協力医の往診を支援し、安心して医療が受けられる体制が確立されている。家族対応受診には、本人の現状が分かるように情報提供を行っている。家族対応受診に必要であれば職員が付き添い情報把握に努めている。	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。かかりつけ医の往診、薬剤師による居宅指導、また職員として看護師を配置しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化が見られた際には、事業所内にいる看護師に相談し、24時間対応の協力医からの指示を仰ぐ、必要であれば往診及び受診同行が出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療関係者に情報提供を行いケアについての話し合いの場を設けている。入院中には面会に行くことで病院関係者との情報交換を行い、早期に退院出来るように努めている。退院時には、医療関係、管理者、ケアマネジャー、協力医、看護師とのカンファレンスを行い情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、事業所がどこまで出来るのかをご家族と話しをしている。また、段階に応じ、本人、ご家族の意見聞くと共に、施設で行える医療行為の範囲も理解していただき、医療、施設スタッフ、関係者との連携にて支援を行っている。	看取りの指針を作成している。看取りの際は、医師の主導で家族と話し合い、方針を職員で共有している。また、訪問看護等の体制を整え、家族の協力を得て取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議にて、急変時、事故発生時の勉強会を行っている。対応マニュアル・緊急連絡先をスタッフルームに掲示し迅速な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設1階にある、デイサービスとの合同訓練及び夜間想定避難訓練を年2回行っている。また、地域住民との防災訓練に参加することで、避難ルートの確保や消防団との連携を行っている。消防・非常災害対策計画を作成し、自営消防団組織図にて自分の役割を明確にし迅速な行動が出来るようにしている。	種々の災害を想定した、デイサービスとの合同訓練、単独の避難訓練を実施し、消防署や消防設備業者の協力も得ている。地域の協力が得られるよう努めているが、まだ協力体制は不十分である。	自治会、地域住民、消防団等に働き掛け、避難訓練への参加、協力体制の構築にさらに取り組むことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに対して、職員は尊敬を持って声掛けを行うようにしている。また、状態に応じての声掛けや支援方法の話し合いを会議で行っている。トイレ使用時はもちろんこと、居室への勝手な出入りを禁止し、ノックや声掛けを行うようにしている。	人格を尊重し、声かけや言葉遣いに配慮している。排せつや排せつの失敗の際はプライバシーを守り、誇りを傷つけないように目立たずさりげない支援になるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者の表情や行動を見ながら、その時々に応じた声掛けを行い、希望や想いを聞いている。また 判断に迷う入居者には安心できる方へ促しながら自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを確保しながら、臨機応変に時間配分を行っている。お誘いに拒否が見られる場合には時間を置いたり、職員を変えたり等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類選びを職員と相談しながら行っている。2か月に1度の訪問カットを利用し必要であれば、カラーリングの希望も受けており、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けの工夫や嗜好品を使いながら、美味しく楽しく味わっていただけるように努力をしている。季節の行事には入居者と一緒に手作りの物を作ったりと、入居者の出来る能力が引き出せるように支援している。	利用者の希望や好みに合わせた献立にしたり、おやつと一緒に作り、利用者が食を通した楽しみを得られるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をチェック表にて把握している。同事業所に在籍している栄養士の考えた献立を月～金の昼食、夕食時に提供し、毎食楽しんで食べていただいている。また食事量が少ない方は主治医に相談を行い嗜好品の取入れや栄養補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の出来る限りの範囲にて口腔ケアを行っていただいている。職員は磨き残しが無いように一人ずつ口腔ケアに付き、場合によっては介助に入るようにしている。また、希望者には定期的な歯科検診を受けられる体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう自立に向けての支援を行っている。また、職員会議では、入居者それぞれに合わせたオムツやパット使用についての話し合いをしている。	排せつチェック表で把握し必要に応じて声かしている。一人ひとりに応じてリハビリパンツやパットを利用し、排せつの自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の一つとして、体操や風船パレー等、身体を動かす運動の参加を促したり、食材を工夫し野菜や乳製品を取り入れ便秘予防に努めている。それでも便秘の方には主治医と相談し内服薬の処方をしていただいている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を設け、入浴支援を行っている。一人ひとりのタイミングに合わせて、入浴順番を配慮しながら入浴を楽しんでいただけている。また入浴拒否がある場合は時間をずらしたり、声掛けを工夫しながら無理強いすることなく入浴をされている。	基本は週3回、午前中の中の入浴であるが、希望や状況にあわせて柔軟に対応している。1対1で対応して、寛いで入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解しながら、日中の家事活動・レクリエーションに参加を促し、活動的に過ごすことで夜間の安眠に繋げている。昼食後にお昼寝をされている方もおり、休息の時間も個々に合わせている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れを防ぐために、職員及び薬剤師にて管理している。薬処方時には個々の生活記録に赤ペンで記録を残し、全職員が理解と共有が出来るようにしている。薬についての疑問や副作用と思われる場合は主治医・薬剤師に連絡し指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に配慮しながら、役割や楽しみを支援している。現在は、風船パレーの参加やオレンジカフェへの外出、お茶会を楽しみにされており気分転換の一つにもなっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日は、近くの緑道公園散歩やドライブ・オレンジカフェへの外出を行っている。またご家族支援のもと外食、外泊・ドライブを楽しまれる方も数名おられる。	近くの緑道公園を散歩したり、オレンジカフェへ外向き、月1回はドライブを楽しんでいる。家族の協力が得られる利用者は、外出や外泊をしているが、個別に外出支援をする機会が少ない。	利用者の状況やホームの構造上からストレスの発散、五感の刺激等のために利用者の状況や希望を把握して、一人ひとりの個別支援に取り組むことを期待したい。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望された方には、家族と相談し了承の下所持されている。家族より事業所預かり金を希望される方には出納帳・支払い領収書の管理を行い毎月家族宛に書面での報告を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋や封筒等を用意し、いつでも手紙を書いて出せるように支援を行っている。事業所内の電話は、24時間自由に使えるように支援しており、外部からの電話取り次ぎには、個別の部屋で話ができるように配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって居心地の良い場所になるように環境整備を行っている。ホール壁面には季節に合わせた作品を入居者、職員で作成し展示している。照明や空調にも配慮し必要に応じて加湿器も使用している。	採光や温度、換気に配慮し、共用空間にソファを置き、寛げるスペースを確保するなど居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ゆったりと座れるソファを置き、気の合った方々で過ごせる場所作りをしている。ホール座席は性格や状態を考慮し、必要時には席を変えていく配慮をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い込まれた家具や寝具、離れた家族をいつでも見れるように、写真や仏壇を置かれたりと、本人にとって居心地の良い居室作りに努めている。	使い慣れた家具や寝具、入居前部屋の写真や絵などを持ち込むよう助言し、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が入居者一人ひとりの出来る事を理解し、その人の力に応じた行動を、声掛け、見守り、介助を行い安全に過ごせるようにしている。また職員会議にて、今の現状に合わせた、介護方法や環境整備の話合いを行い実践している。			